



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSACA CENTENNIAL

C/O OSACA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHI-KU,
 OSACA, JAPAN

May, 2001 No.12
 Chartered July 20, 1982

標語 YS SLOGANS (2000~2001)	
クラブ会長	『私が育てるワイズ 私を育てるワイズ 私とワイズの共育』
国際会長	"Equipped for a Purpose" 『常に備えあれ、目的に向かって』
アジア会長	"The new millennium, the new Y'S men" 『ニューミレニアム、ニューワイズメン』
西日本区理事	『イノベーション(革新) 一理想のワイズを求めてー』 "What is the ideal Y's?"
中西部長	『人ワイズに集い、夢限りなし』

クラブ役員 Officers	
会長	: 畠中 彬
副会長	: 川村 一夫
副会長	: 中村 茂高
書記	: 山田 孝彦
会計	: 三浦 直之
ネット会長	: 畠中ひろみ
連絡職員	: 浜野 昌保

月間強調テーマ : 『今期の振り返りと評価』

《《《《 6月の聖句 》》》》

【 Biblical Message of the Month 】

実に、キリストはわたしたちの平和であります。
 二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意とい
 う隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃
 棄されました。

こうしてキリストは、双方を御自分において一人の
 新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、
 両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって
 敵意を減ぼされました。

(エフェソの信徒への手紙 2章14~16節)

《《《《 Attention Please 》》》》

お願い!

6月例会では、各事業委員長より「本年度活動報告」を
 実施頂く予定にしております。

EMC (山村)、ファンド (隅田)、Yサ・ユース (福永)、
 CS・TOF (栗山)、交流 (谷川)、広報 (藤原) ネット
 (畠中) などの各事業委員長の皆様は、予め2~3分程度の
 活動報告をご準備の上、ご出席願います。

【クラブ統計 Statistics】

2000年5月		種別	第1例会	第2例会	BFポイント		ニコニコ献金
在籍会員	26名	メン	15名	5名	5月:切手	310 gr.	5月: 21,050円
例会出席	15名	メネット	8名	0名	現金	6,000円	(2万円NPOなら献金)
マークアップ	1名	コメント	2名	0名	累計:切手	8,685 gr.	累計: 156,608円
出席率	61.5%	ゲスト	19名	0名	現金	66,240円	(除Xmas献金、オーク
(Attendance Ratio)		合計	44名	5名	(明細はP.3 "BF報告"参照)		ション、記念献金)

《《《《 6月第1例会 》》》》

【 June Club Meeting 】

◇第1例会:

日時: 2001年6月20日(水) 18:30~20:30

場所: ホテルサンガーデン堂島4F

司会: 松浦 孝次 君

1. 開会点鐘 畠中 彬 会長
2. ワイズソング ー 同
3. 聖句朗読 貴多野乃武次君
4. ゲスト紹介 畠中 彬 会長
5. 日々の糧・晩餐 ー 同
6. "ちょっとスピーチ" 谷川 寛 氏
7. 西日本区大会報告 畠中 彬 会長
三浦 直之 君
8. 東日本区大会報告 黒田 徹之 君
9. 本年度活動報告 各事業委員長
10. 優秀ワイズ表彰 畠中 彬 会長
11. お誕生日祝い ー 同
12. ニコニコ献金 ドライバー
13. 報告タイム 役員・連絡職員
14. 閉会点鐘 畠中 彬 会長

◇第2例会

日時: 2001年5月27日(水) 18:30~20:30

場所: 大阪YMCA土佐堀館9F

例会当番: 1班 (山田、鈴木、池永洋、松浦、
 新保、貴多野)

お誕生日: 黒田俊子 26日、新保益代 28日

近年バリアー・フリーが叫ばれ、道路や駅や建物の中も通行し易くなり、足の不自由な私などは多いに助かっています。

このバリアー（障壁）を取り除くことは、人間関係においても考えなければならないことです。

人は自分の所属する集団、例えば国、民族、地域社会、政治集団、企業、学校、宗教など種々のグループに帰属意識を持ち、他のグループに対し障壁を作り、交流することを排除する傾向があります。

更に言えば、自分の考えや立場にとらわれ、固定観念に縛られて、その「ワク」の中でしか考えることができなくなっている様です。（このことは自己の信念が堅ければ堅いほど、相手の立場に立って物事を考える余裕がなくなっていることを示しています。）

キリストは、当時の社会を支配していたユダヤ教の戒律に縛られた律法主義の壁を打ち破り、人々の自由な考えに基づく生き方を主張しました。（いわば革命児だったのです。）その為には自ら十字架を負うという犠牲を甘んじて受けて、対立している人と人の心をついに結びつけようとした。

バリアー・フリーは心のあり方にまで及ぼしてこそ真の意義を持つものといえましょう。

（聖句選、お奨めの言葉：黒田巖之）

《《《《 5月第1例会 》》》》

【 Report of the May Club Meeting】

(5月16日(水) 18:30~20:30)

広報委員長・藤原 正巳

5月第1例会は、当クラブのディファレンス・デイ行事として、メン15名、メネット8名、コメット2名のほか、ワイズ関係ゲスト6名、及び非ワイズ会員13名を迎え、賑やかに開催されました。

記念講演の冒頭、講師の国際交流コーディネーター、ならNPOプラザ代表・仲川順子氏より、国際化時代における相互理解のため、日本のみならず世界の話題についてもきちんとした考えを持つことの必要性が強調されました。

続いて国際交流コーディネーターの役割、NPO団体の活動目標、運営上の問題点、ボランティアについての基本的な考え方、及びならNPOプラザの活動実態などにつき分かりやすく説明が行われました。

特に、「国際理解のためにはグローバルな視点で物事を考える習慣をつけること」、「NPO団体の共通目標が人間らしく生きられる、良い社会を作ること」にあること、「ボランティア活動は、自分が何が出来るかを認識することから始まること」など、日々の実践に裏打ちされたお話が強く心に残り、軽食時間も含め約1時間半という時間が短く感じられる充実のひとときでした。

初めてのディファレンスデイの企画でしたが、出席の皆様とのNPOとしてのワイズ理解が多少なりとも深まったのであれば大きな意義があったと思います。 以上

There were almost 50 people attending the May meeting. They were 15 Y's men, 8 Y's menettes, 2 Y'slings, 6 Y's men guests from another clubs and 13 non-Y's men guests. The May meeting was named the "Difference Day Gathering" whose main purpose was to promote our activities to prospective candidates.

Ms Junko Nakagawa, a Representative Partner of the Nara NPO Plaza, a Non-profit Organization based in Nara, told us about how to co-exist in multi-cultural society with foreigners living in Japan.

She emphasized to have our own clear cut opinions on both domestic and global issues to promote mutual understanding between local Japanese and foreigners living in Japan. She also stressed that those who want to start volunteer service activities in local community should consider first what they can do to them.

Time went by so quickly that evening because of her intelligible way of presentation and her enthusiasm, which attracted audience.

Yen 21,050 was collected for the club's fund, and Yen 6,000 plus 310 grams of used stamps were also collected for the brotherhood fund.



《《《《 5月第2例会 》》》》

【 Report of the May Officers' Meeting】

(5月24日(木) 18:30~20:30)

書記・山田 孝彦

当日の協議事項は次の通りです。

1. 6月例会プログラム：表記プログラムの通り

①優秀ワイズ表彰

表彰項目と受賞者は会長・副会長に一任。なるべく多項目で表彰するが、賞品は1人1点とする。

2. 7月例会プログラム：「今期の振り返りと評価の月」

①強調テーマ「Kick-off/ EMC」

②新旧会長交代式（中西部長訪問決定）

③年次総会

新年度方針説明（中村会長）

新年度予算審議（三浦会計）

各事業委員長挨拶

④「ちょっとスピーチ」貴多野乃武次君

3. クラブ運営関係：

①ディファレンスデイの評価と反省

企画の趣旨である『ワイズ以外のゲスト』を多数迎えられたこと、スピーチが実際のボランティア運動に即した内容で参加者の心に訴えるところも多く、実際の行動に移そうという動機づけとなった様で、講師もこの機会を得たことを喜んでおられた。

②西日本区大会出席者：現在8名（未確認4名）

東日本区大会出席者：2名

アジア大会参加予定：現在5名

③クラブ20周年行事については7月例会に諮る。



(熱心に講演に聞き入る参加者—ディファレンスデイにて)

◆◆◆ ディファレンス・デイ報告 ◆◆◆

副会長・中村 茂高

5月16日(木)、大阪YMCA会館で当クラブ初の「ディファレンスデイ」を行った。「豊かなぬくもりある多文化共生」をテーマに、奈良で在日外国人の支援を行うなど、グローバルな視点でボランティア活動の拠点づくりを目指す国際交流コーディネーター、仲川順子・ならNPOプラザ代表を招き、2時間余り軽食もつまみながら話を伺った。

中川さんが活動を始めたきっかけは、ドイツの航空会社に勤務時に日本のことを尋ねられ、自身日本文化を余り知らなかったことや、世界の動きについて絶えず関心を持って議論している同僚の姿に接したことだったという。

89年から96年までの7年間、ならシルクロード博記念国際交流財団で国際コーディネーターとして働いたことも転機となった。ここでは、情報と情報、人と人、人と活動をつなぎ調整して行くことの大切さを知った。

仲川さんは、「ボランティア団体は夫々の歴史をもっているが、横のつながりがなく、分野が違う。一見正反対に見える活動でさえ、学び合うことができる」という。「ボランティア活動はさりげなく手をさしのべることから…」が特論。

最近ボランティア講座に50才台の男性が目立つ。それを仲川さんは、定年後の豊かな生活を求める変化の兆しと見る。短い時間だったが活発な質問や意見も飛び交い、今後どの様な活動がワイズに求められているのかを考える良い機械になった。以上

★ゲストの皆様よりのアンケートの回答を下記に掲載します。ワイズメンについては「ニコニコメッセージ」に掲載

○ボランティアするに当って私に特技はありません。ただ、特技を持っている人は沢山知っています。今日はNPOの権威、中川さんを知り、財産が一つ増えました。

(樋口 東光)

○違いを認め受け入れていくことが21世紀の大きなテーマであることを、今回のお話の中から確認できたように思います。年令を越えて夫々が持つ経験の豊かなシニアを促進していけるようになればと思います。(峯野嘉津人)

○国際協力のNPOを実行されている方の生の声を聞いてとても刺激になりました。特に女性の視点で問題を捉えられており、非常に理解しやすい方です。NPOの良さはネットワークを広げることが自由で、軽快であることですね。

(柏木弘太郎)

○質疑でせっかく良い質問が出ているので、ディスカッションができれば深められたのではないのでしょうか。色々の人の意見も聞きたかったです。(柏木 順子)

○自分がどうしたいか、どういうことがボランティアにとってとても大切であるかが分かりました。させられている”という感じがあればそれはボランティアにはならない…ボランティアというものについて考える良い機会になりました。(富田川佳子)

○今回の講演会を聞かせて頂いて、私自身日本のことも知らなければ、他国の事も知らないという、問題意識の低さを痛感しました。質問をされれば調べようとするけれども、興味を持つことの意識の低さなのだと思います。

また、横のつながりも正しく医療界もそうなのだと思います。現在はずいぶん縦割りが改善されつつあるとは思いますが、グローバルな視点を持って日常生活を送りたいと思います。(近藤真理子)

○今回初めて参加させて頂きました。「国際交流」について一緒に考えることができ、もう一つの生き方として参考にさせて頂きたいと思います。ただ今日の日本社会を見るとどうでしょうか。在日外国人の支援も大切ですが、国内(日本人、特に若者)に対するボランティア活動、例えば心のケアなど、も大切だなあと感じました。有難うございました。(山口 真理)

○仲川先生のお話は感銘を受けた。ボランティアとは自分に何ができるか、「部長ならできます」が印象的。「ならNPO」のような組織が阪神間にあればコンタクトしてみたい。「企業人」から「地域人」へ退職者教育を企業がやるべきという点が印象的。(西野 昌樹)

《《《《 YMCA ニュース 》》》》

連絡職員・浜野 昌保

★早天祈祷会

日時：6月15日(金)7:30~8:30

場所：大阪YMCA会館 10Fチャペル

証し：山内 信三氏 (大阪YMCA協力会員)

★夏季特別プログラム大募集中です。

大阪YMCAでは、子供から大人までの海外語学研修、海外キャンプ、受験生のための夏季講習、英会話集中セミナーなど、夏休みを中心として様々な特別プログラムを実施致します。

また、子供対象の国内キャンプや集中体育教室など、幅広く取り揃えております。ワイズメンご本人や、ご家族、お知り合いの方々にも是非お奨め致します。お問い合わせやその他なんでも私にお申し付け下さい。どうぞよろしくお願ひ致します。以上

《《《《 5月BFニュース 》》》》

【Report of the Brotherhood Fund in May】

BF委員長・隅田 保

◇切手提供者：

黒田君、鈴木君、藤原君、山田君、松浦君、山村君

今月の殊勲賞 山田君 (110g)

◇現金提供者：山田君、鈴木君

THE OSAKA CENTENNIAL

みみみ ニコニコ・メッセージ ううう

【 Messages from the Club Members 】

《ゲストからのメッセージ》

- 仲川先生のグローバルな視点からのボランティア考を聞かせていただき有難うございました。センテニアルクラブのディファレンスデイに感謝。
(中西部長・森本榮三)
- ボランティアについて今一度考える機会を与えられ感謝。関西生命線の伊藤みどりさんの話題に触れて頂きましたが、私も伊藤さんと10年以上関西生命線のお手伝いをさせてもらって、運営、イベント、ボランティアの大変さを思い起こさせて頂きました。今日のセンテニアルクラブの企画・例会は素晴らしいことでした。
(次期中西部長・尾崎琢磨)
- 日頃自クラブではお誘いできないゲストの話をする多くの人が聞き、巾の広い質問に色々考えさせられます。社会の変化と共にボランティア活動もどんどん転回していく必要があり、考える原資をできるだけ知りたいので、今回の例会は勉強になりました。
(大阪セントラルクラブ・横田憲子)
- 阪神淡路大震災の時に神戸へ神戸へと自然発生的に人が流れたボランティアのうねり、その後環境汚染など個人の活動だけではどうにもならないと気付いた多くの人が、また、昨年4月開始した介護保険の相互扶助などなど、やっと日本人も気付き、動き出したボランティアの団体、本当に嬉しく思っています。
私も30年近く消費者運動、石鹸を使う会、食菜・山菜の会、郷土研究会など、市との委託事業を含め会員だけの会は10を下りません。河内長野市で初めて行ったボランティアフェスティバルも大成功でしたが、縦割りの思いでした。健康の続く限り世の中、社会の中でお役に立ちたい、私なりにできることを。
(大阪長野クラブ会長・今井利子)
- リタイアご自分のやりたいことをやっているだけで満足していることにやや疑問を持ち出し始めていた折、ボランティアのあるべき姿を聞き、大いに啓発された。また一輪を広げてみようと思う。
(奈良クラブ・平井洋三)
- ## 《会員からのメッセージ》
- 当クラブにふさわしい企画です。NPOの3つの悩み、良く分かりました。
(貴多野乃武次)
- 目的がクラブ以外の人に来て頂く、むしろそれらの人々に呼びかけることであるから、
① 先ず一般に集まりやすい時を選ぶ。(例えば土曜日の午後とか金曜日の夜とか) センテニアルクラブの例会日に拘らない方がよい。
② 集会形式も初めての人には違和感を与えると思う。
③ 予め催しの予告を新聞の催し欄に送ることを試みる。
(黒田 敏之)
- 保守王国、村社会の奈良にボランティア活動を根付かせる努力は大変なものだったろうと拝察致します。私達も更に地道に活動を続けます。(奈良県出身・栗山 佳三)
- 仲川先生のお話は、全てにおいてうなづけることばかりで、今日はとても有意義な例会でした。(坂本 千寿)
- 今日は自由な雰囲気とても楽しい会でした。仲川先生

のお話をうかがいながら、ボランティアを通して豊かな、ぬくもりのある社会に参加できるといいと思いました。
(隅田 恵子)

- とても良い企画と思います。ゲストスピーカーも良かったし、なによりも多くの人の参加が良かったです。毎年(この様な催しを)希望します。
(谷川有美子)
- NPO 法人が増えている今、仲川先生の話がその基本になっていると聴きました。人と人とのつながりを大切にする働きが求められている今、「平和な社会」をとの今日のお話、頭が新しくなってきた様に感じます。本日の話に感謝です。
(谷川 俊一)
- 初めてのディファレンスデイ、多くの参加者があって本当に良かった。今日の仲川さんのお話から、ワイズだからこそ色んなジャンルを超え、色んな出会い、つながり、広がりを作っていくことの可能性を学びました。
(中村 茂高)
- 本当に心温まる活動をされていると心から感心致します。地球市民として、またボランティア活動の一環として皆で考え、行動して行けたら良いのになと思います。
(中村 幸枝)
- 我が家の娘が3ヶ月オーストラリアでファーム・ステイをして過しました。多くの人達に大変お世話頂き、感謝でした。私にもできることが沢山あるんだと嬉しく思いました。
(島中ひろみ)
- 今日は色々な話が聞けて良かったです。自分の知らないところでこんなボランティアがされているのを知り、大変興味がありました。また機会があれば参加したいと思います。
(コメント・島中 あや)
- 今日は多くの方々にYMCA 会館へ足を運んで頂き、感謝です。また、YMCAの様々な活動にもご参加頂ければと思います。お待ちしております。
(浜野 昌保)
- 多文化社会の特徴を生かしたNPO活動の進展を祈ります。難しい日本の現状を、できることから打開したいものです。
(福永 嘉彦)
- 今日は仲川様のNPOについてのお話、とても分かりやすく聞かせていただきました。大勢の参加でとても楽しい会でした。
(福永 滋子)
- 今日の企画はディファレンスデイにふさわしく、お骨折り頂きました中村茂高さんに感謝です。島中、松浦両コメントの参加にセンテニアルの新しい時代を感じました。これからも時々いらして下さい。
(藤原 正巳)
- いつもの例会より広がりを持った参加者と共に、仲川順子さんの見識と行動に裏づけされたお話をうかがうことができ、大変意義がありました。
(松浦 孝次)
- 今日は仲川順子氏の「豊かなぬくもりのある多文化共生」というテーマのお話があり、とても興味深く聞きました。住みやすい社会を作るために、何かできることがあればやりたいと思っています。
(松浦 和子)
- 今日の企画はクラブ外の人々と交流する機会として良かったと思います。
・ボランティアで自分が何ができるか、真剣に考えさせられました。
(三浦 直之)
- Y's Men's Club の活動を知って頂くための企画でしたが、NPO活動の問題に新たな理解を深めることができ、ました。感謝です。
(山田 孝彦)
- ならNPOプラザの理解が一段とできました。今後この様な例会が必要と思います。
(山村 幸明)